

平成 14 年 3 月期第 1 四半期の業績等の概況（連結）

上場会社名 株式会社 エスケイジャパン
 上場取引所(所属部) 大阪証券取引所・新市場部
 (コード番号 7608)
 本社所在地 大阪府中央区上町一丁目 3 番 10 号
 問い合わせ先 責任者役職名 取締役管理部長
 氏 名 川 上 優
 T E L (06) 6765-0670

1. 業 績

(千円未満切捨て)

(1)平成 14 年 3 月期第 1 四半期(平成 13 年 4 月 1 日～平成 13 年 6 月 30 日)の業績

	14 年 3 月期第 1 四半期 (当四半期)	対前年同 期増減率	13 年 3 月期第 1 四半期 (前年同四半期)	参 考 前期(通期)
売 上 高	千円 1,288,003	% 4.88	千円 1,228,096	千円 5,090,207
営業利益	64,496	46.45	120,444	337,201
経常利益	64,144	46.02	118,822	324,154

(2)販売の状況

業態別売上高

(単位：千円、%)

			14 年 3 月期第 1 四半期 (当四半期)		13 年 3 月期第 1 四半期 (前年同四半期)		参 考 前期(通期)	
			売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比
ア ミ ユ ー ズ メ ン ト	オ ペ レ ー タ ー	メーカー系	110,350	8.6	154,610	12.6	507,002	10.0
		量販店系	58,994	4.6	45,661	3.7	278,800	5.5
		ショッピングセンター系	104,992	8.1	112,737	9.2	435,830	8.6
		路面店	666,589	51.7	616,960	50.2	2,647,398	52.0
		遊園地等	25,651	2.0	30,970	2.5	91,595	1.8
	ディスプレイコーナー	91,358	7.1	79,610	6.5	307,998	6.0	
	S P 部門	15,392	1.2			46,057	0.9	
小 計			1,073,329	83.3	1,040,551	84.7	4,314,686	84.8
物 販	問 屋		21,373	1.7	22,613	1.9	89,026	1.7
	小売店		193,299	15.0	164,931	13.4	686,493	13.5
	小 計		214,673	16.7	187,544	15.3	775,520	15.2
合 計			1,288,003	100.0	1,228,096	100.0	5,090,207	100.0

(注) 1. メーカー系とは、アミューズメント機器を製造している企業のことです。

2. 量販店系とは、大手量販店(スーパー等)のアミューズメント部門のことです。

3. ショッピングセンター系とは、量販店やショッピングセンターのテナントとして店舗展開してい

る企業のことです。

4. ディストリビューターとは、アミューズメント施設へのアミューズメント機・景品等の販売を主業とし、アミューズメント施設を運営していない法人または個人のことです。

5. SPとは、セールスプロモーションの略称であり、企業プレミアム商品の企画・販売を担当する部署のことです。

6. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

商品分類別売上高

(単位：千円、%)

	14年3月期第1四半期 (当四半期)		13年3月期第1四半期 (前年同四半期)		参 考 前期(通期)	
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比
自社企画商品	31,216	2.4	21,084	1.7	106,914	2.1
キャラクター商品	279,245	21.7	357,177	29.1	1,169,473	23.0
仕入商品	977,540	75.9	849,834	69.2	3,813,817	74.9
合 計	1,288,003	100.0	1,228,096	100.0	5,090,207	100.0

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 主な資産・負債の変動について

項 目	14年3月期第1四半期	増減額	前期末
	千円	千円	千円
(資産)			
現金及び預金	872,894	96,386	776,508
受取手形及び売掛金	805,139	41,117	764,021
棚卸資産	269,527	143,141	126,385
(負債)			
買掛金	695,016	226,068	468,947
短期借入金	266,118	56,442	209,676

(注) 当四半期および前年同四半期に係る数値については、監査法人による会計監査を受けておりません。

2. 業績の概況

(1) 当四半期の状況

当四半期の売上高は、アミューズメント業界向け販売事業・物販業界向け販売事業ともに好調であり、1,288百万円(前年同期比4.9%増)と増収となりましたが、円安に伴う仕入原価の上昇、早期見切り販売の実施等により、経常利益は64百万円(前年同期比46.0%減)と減益となりました。しかし、これは計画どおりの数値であり、中間期以降におきましても計画どおり推移する見通しであり、今期は増収増益を見込んでおります。

(2) 部門別の状況

〔アミューズメント業界向け販売事業〕

アミューズメント業界向け販売事業は、量販店系オペレーター、路面店への販売が好調であったため、売上高は1,073百万円(前年同期比3.2%増)と増収となりました。量販店系オペレーターへは、先物商品のプレゼンテーションが順調であったこと、路面店へは、頭文字(イニシャル)D関係の商品が好調であったこと等により、それぞれ前年同期比29.2%、8.0%の増収となりました。しかし、メーカー系オペレーターへの販売は、先行企画商品が不足したため、前年同期比28.6%の減収となりました。また、商品面では、メジャーキャラクターが不在の中、販売のリスクを最小限に抑えるため、キャラクター商品の生産数量を意図的に調整した結果、キャラ

クター商品の売上高は前年同期と比較して減少しました。

S P部門は、宅配ピザチェーンやレストランチェーン、お菓子メーカー等の販促商品が決まり、15百万円の売上高を上げました。

今後の施策といたしましては、オリジナル商品の企画開発を推進し、先行受注体制を確立することによる、メーカー系・量販店系オペレーターへの売上高のボリュームアップを図ります。

〔物販業界向け販売事業〕

物販業界向け販売事業は、キーホルダー類の伸びは好調であったものの、携帯電話関連グッズが不振であったため、主力商材の売上は前年並に留まりました。しかしながら前期からの課題であったバラエティー雑貨の品揃えの拡充と販売強化につとめた結果、売上高は214百万円（前年同期比14.5%増）と増収となりました。

今後、引き続きバラエティー雑貨の品揃えの拡充と自社企画による商品開発を進め、既存の取引先への納入品目の増加を図り、併せてチェーン店との取引を拡大し、またキーホルダー、携帯ストラップの地域限定アイテムの開発による新規販売ルートを開拓してまいります。

3. 当期の見通し

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
通 期	5,400百万円	360百万円	204百万円	60円77銭

4. その他

該当事項はありません。